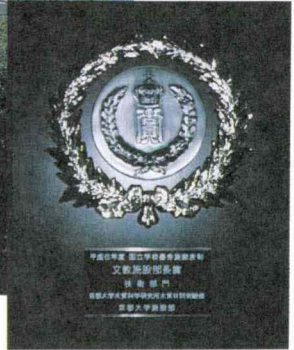


# 京大広報

No. 490

京都大学広報委員会



国立学校優秀施設として表彰された木質科学研究所木質科学実験棟と文部省  
文教施設部長賞の表彰盾 —関連記事本文1013ページ—

## 目 次

<b>&lt;大学の動き&gt;</b>	
井村総長, アメリカ合衆国訪問.....	1011
京都大学春秋講義(秋季講座)の開講.....	1011
京都大学市民講座の開講.....	1012
平成7年度国立学校施設整備事業の決定.....	1013
木質科学研究所木質材料実験棟が国立学校優秀施設として表彰される.....	1013
<b>&lt;栄誉&gt;</b>	
福井三郎名誉教授がフランス政府の国家功労勲章を受章.....	1013
<b>&lt;部局の動き&gt;</b>	
平成7年度文学部博物館春季公開展示.....	1013
医療技術短期大学部説明会.....	1014
放射線生物研究センター研究棟増築の完成.....	1014
遺伝子実験施設の研究用精密機器および遺伝子改変動物飼育室の共同利用等について.....	1014
<b>—公開講座—</b>	
文学部博物館「2万年前の石器製作跡」.....	1015
工学部「環境を守る工学」.....	1015
人文科学研究所「物語としての過去」.....	1016
医療技術短期大学部「健康科学公開講座—高齢化社会を迎えて—」.....	1016
農学部「農林経済・経営・簿記講習会」.....	1016
農学部附属演習林「森のしくみと働き—芦生演習林への招待—」.....	1017
理学部「現代数学展望」.....	1017
数理解析研究所「数学入門」.....	1018
情報処理教育センター「パソコン利用入門」.....	1018
防災研究所特別企画「阪神・淡路大震災に学ぶ」.....	1018
霊長類研究所「霊長類の進化」.....	1019
<b>&lt;資料&gt;</b>	
国立大学教官等の待遇改善に関する国立大学協会の要望書.....	1019
<b>&lt;紹介&gt;</b>	
大学院医学研究科の重点化について.....	1021
—京都大学の百年(第11回)—	
敗戦と京都帝国大学同学会.....	1023
討報.....	1024
日誌.....	1026
<b>&lt;随想&gt;</b>	
肝に銘ず 名誉教授 神野 博.....	1027
学生交流のための大学間協定締結に関する国際交流委員会からの提言(別冊).....	1028

## ＜大学の動き＞

## 井村総長、アメリカ合衆国訪問

井村総長は、国立大学協会訪米調査団に参加し、米国諸大学における教育、研究状況を調査し、併せて日米医学協力委員会に出席するため、7月23日からアメリカ合衆国に出張し、8月6日帰国した。

今回の訪問先は、カリフォルニア大学バークレイ校、スタンフォード大学、プリンストン大学、ペンシルバニア大学、マサチューセッツ工科大学、タフツ大学、ハーバード大学及び米国国立衛

生院(NIH)であった。各訪問大学においては、学長等関係者からカリキュラム、教育の評価、学術におけるメリトクラシー、入学者選抜方針等に関する経験についての説明を受けるとともに日米大学学生交流の推進について意見交換を行い、教育研究施設を視察した。

また、総長は日米医学協力委員会に出席し、アメリカ合衆国側委員と高等教育・学術研究機関における医学の現状、研究者交流について意見交換を行った。

なお、今回の米国諸大学調査には、森重和子国際交流課長が同行した。

## 京都大学春秋講義（秋季講座）の開講

本学では、財団法人京都大学後援会の協力の下に、下記のとおり「京都大学春秋講義（秋季講座）」を開講する。

本学教職員並びに学生については、各講義とも特別受講枠（無料）30名を設けているので、受講希望者は所属部局の事務担当掛へ申し込むこと。

## 記

## 月曜講義（5回シリーズ）メインテーマ「戦後50年を考える」

開講日	講 師	テ ー マ
10月16日	法学研究科教授 大 嶽 秀 夫	戦後50年・政治対立の構造変化
10月23日	経済学部教授 下 谷 政 弘	戦後50年と日本経済
10月30日	農学部教授 荒 木 幹 雄	戦後50年の農業
11月6日	教育学部教授 和 田 修 二	戦後50年と教育の今日的課題
11月13日	人文科学研究所教授 宇佐美 齋	現代詩に見る戦後50年
定 員	150名	
受 講 料	6,000円（全講義を通しての受講料です。）	

## 水曜講義

開講日	講 師	テ ー マ
10月18日	霊長類研究所教授 松 沢 哲 郎	チンパンジーの知性と文化
10月25日	文学部教授 加 藤 尚 武	環境から見た21世紀
11月1日	理学研究科教授 宮 田 隆	DNA で生物進化をたどる
11月8日	法学研究科教授 奥 田 昌 道	家族法改正の動向
11月15日	名 誉 教 授 佐々木 和 夫	人間の脳高次機能を測る
定 員	各講義 150名	
受 講 料	各講義 1,200円	

- 会 場 法経第二教室  
 ○時 間 午後6時30分～8時30分  
 ○申込締切日 9月29日(金)  
 ○申込方法  
 ① 月曜講義、水曜講義の別々に往復はがきで下記の申込み先へ申し込むこと。申込はがきには、住所・氏名・電話番号を記入すること。なお、水曜講義の場合は受講希望日を必ず記入すること。返信はがきにも住所・氏名を記入すること。  
 ② 受講料は、受講決定通知を受領後、指定の口座へ振り込むこと。支払後の受講料は返金しない。  
 ○受講資格は問わない。  
 ○申込み・問合せ先 庶務部研究協力課研究協力掛(内線2041)

### 京都大学市民講座の開講

本学では、来る10月14日、21日、28日の各土曜日に広く一般市民を対象とする「京都大学市民講座」を開講する。

本講座は、財団法人京大会館楽友会の協力の下に、昭和54年以来毎年開かれているもので、今年度は、「しらべる」を共通テーマに、総合大学の特色を生かして学問の諸領域にわたる講義が行われる。

- 受講定員 400名  
 ○受講料 2,000円(全講義を通しての受講料です。)  
 ○申込方法  
 ① 往復はがきに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入(返信はがきにも住所・氏名を記入)の上、9月29日(金)までに下記の申込み先へ申し込むこと。  
 ② 受講料は、受講決定通知を受領後、指定の口座へ振り込むこと。支払後の受講料は返金しない。  
 ③ なお、本講座を本学教職員並びに学生にも広く開放するため、50名の特別受講枠(無料)を設けているので、受講希望者は所属部局の事務担当掛へ申し込むこと。  
 ○会 場 法経第四教室  
 ○受講資格は問わない。  
 ○申込み・問合せ先 庶務部研究協力課研究協力掛(内線2041)

#### 講義日程 共通テーマ—しらべる—

開 講 日	テ ー マ	講 師
第1日 10月14日(土) 13:00～16:40	開講のあいさつ	総 長 井 村 裕 夫
	宇宙をしらべる	理学研究科教授 稲垣省五
	犯罪をしらべる —犯罪捜査と人権—	法学研究科教授 鈴木茂嗣
第2日 10月21日(土) 13:00～16:30	古典絵画作品成立の背景をしらべる	文学部教授 佐々木丞平
	経済をしらべる	学生部長・経済学部教授 瀬地山 敏
第3日 10月28日(土) 13:00～16:40	物質の微細な構造をしらべる	化学研究所教授 小林隆史
	身体の中をしらべる —形とはたらき—	医学研究科教授 小西淳二
	閉講のあいさつ	法学研究科教授 前田達明



## 平成7年度国立学校施設整備事業の決定

平成7年度国立学校施設整備事業のうち、本学関係分は次表のとおりである。

部 局 名	構造・階	面 積	備 考
人間・環境学研究科校舎(仕上1)	SR 5-1	10,790m <sup>2</sup>	R は鉄筋コンクリート構造 SR は鉄骨鉄筋コンクリート構造 B はレンガ構造 5-1 は地上5階地下1階
人間・環境学研究科校舎(仕上2)	SR 5-1	10,790m <sup>2</sup>	
医学部附属病院看護婦宿舎改修	R	2,310m <sup>2</sup>	
総合人間学部校舎埋蔵文化財調査		一 式	
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	R 3-1	2,000m <sup>2</sup>	
理学部研究棟改修(地球物理学研究施設本館)	B	1,610m <sup>2</sup>	
原子炉実験所研究棟改修	R	3,550m <sup>2</sup>	
防災研究所地震予知観測施設		一 式	
ATM ネットワーク(吉田及び宇治地区)		一 式	
基幹整備(吉田地区)		一 式	

上記事業の実施に際し、工事周辺部におけるご協力をお願いします。

## 木質科学研究所木質材料実験棟が国立学校優秀施設として表彰される

平成6年2月竣工した木質科学研究所木質材料実験棟が、今般国立学校優秀施設(技術部門)として選ばれ、施設部に文部省文教施設部長賞が授与された。

受賞理由は、次の通りである。

- ◎ 建物自体が実験材で木構造に関する貴重なデータを提供することができる。
- ◎ 大断面集成材を使用して、ダイナミックでやさしい空間を演出し、神社仏閣の重厚さも併わせ持つシンメトリーな構成となっている。
- ◎ 一部鉄筋コンクリート造との併用構造であり、木造による耐火建築物の好例を提示した。

## &lt;栄誉&gt;

## 福井三郎名誉教授がフランス政府の国家功労勲章を受章

福井三郎名誉教授(元工学部教授、工業生化学)に対して、フランス政府から国家功労勲章・

オフィシエ章が授与され、その授与式が7月24日、フランス大使館で行われた。

今回の勲章授与は、同名誉教授の永年にわたる日仏のバイオ産業、研究交流についての顕著な功績をたたえたものである。

## &lt;部局の動き&gt;

## 平成7年度文学部博物館春季公開展示

文学部博物館では、6月24日(土)で平成7年度春季公開展示を終了した。展示内容、入館者数は次のとおりである。

期 間	展 示 の 名 称	入 館 者 数				
		一 般	学 生	職 員	特別観覧	計
5/9~6/24	旧石器人のアトリエ	1,061	461	176	351	2,049
	日本古代文化の展開と東アジア					

(特別観覧とは学術研究、視察その他博物館運営研究及び施設見学等である。)

### 医療技術短期大学部説明会

医療技術短期大学部では、7月21日(金)午後1時30分より5時まで、本短期大学部についての説明会を開催した。

説明会には高校生238名、高校進路指導教諭13名の参加者があった。

説明会では、まず大講堂において、参加者全員に本短期大学部の特色、入試概要、各学科の教育

内容を、資料及びスライドを用いて説明した。次に学内施設見学として、6グループに分けて、約1時間学内見学を実施した。最後に、各学科ごとに別かれての個人相談を行い、参加者と教官との懇談の機会を設けた。また、学生生活や入試に関する一般的な相談にも応じた。

参加者の81.1%がアンケート調査に応じ、その内の96.9%よりこの説明会が参考になったとの回答を得た。(医療技術短期大学部)

### 放射線生物研究センター研究棟増築の完成

このたび、放射線生物研究センター研究棟増築部分(鉄筋5階建1,088㎡)が完成し、7月24日(月)午前10時30分から竣工式が挙行政され、佐々木正夫放射線生物研究センター長の代表挨拶のあと、建物の披露が行われた。それに続き京大会場において祝賀会を開催した。

祝賀会は、池永満生放射線生物研究センター教授、嶋 昭紘日本放射線影響学会会長の挨拶で始まり、菅原 努京都大学名誉教授の発声で乾杯の後、小林勝男京都大学事務局長、事務局からの招待者、当センターの教職員等関係者約60名がなご

やかに歓談した。



(放射線生物研究センター)

### 遺伝子実験施設の研究用精密機器および遺伝子改変動物飼育室の共同利用等について

遺伝子実験施設では、昨年度より入居している分子生物科学実験研究棟が全面完成し、設備等の設置には、一応一区切りを迎えた。これを機にか

ねてより共同利用している研究用精密機器等の利用規程の整備を行っている。今回、利用頻度が高い、バイオイメージアナライザー(Fuji, BAS 2000)と自動DNAシーケンサー(ABI, 373A-Stretch)について、利用者間で運用されていた利用規則を運営委員会において明文化し、本年度当初(平成7年4月1日)より施行している。

主な点は、

- ① 利用者は本学の教官を責任者とする研究グループとし、利用に先だって登録する。
- ② 利用時間は、分子生物学実験研究棟が施設されていない、平日の午前8時30分から午後7時までとする。
- ③ 利用責任者は、共通消耗品等の費用を利用程度に応じて負担する。

以上により共同利用のルールが明確となり、よりスムーズな利用が可能になると期待している。

さらに、近々トランスジェニックおよびノックアウトマウス用の遺伝子改変動物飼育室の共同利用を開始する予定である。この飼育室についても、運営委員会で利用規則、利用細則が審議・決定され、本年10月より運用を開始すべく、利用希望のアンケート調査等を行って、準備をしている。

この規則・細則の要点は、以下のとおりである。

- ① 利用者は本学の教官を責任者とする研究グループで、利用に先だって申請し、許可を得たものとする。
- ② 飼育室で飼育できる動物は、トランスジェニックマウス、ノックアウトマウスで、あらかじめ組換えDNA実験の申請をし許可されたものに限る。
- ③ 利用責任者は、空調経費、洗浄経費、屍体処理費など飼育に必要な経費を利用飼育区画数に応じて負担する。

研究用精密機器等ならびに遺伝子改変動物飼育室の利用登録・申請ならびに利用規程等、共同利用に関する問い合わせは、当施設事務室（内線19-4191）までお願いします。

（遺伝子実験施設）

## —公開講座—

### 文学部博物館

#### 「2万年前の石器製作跡」

文学部博物館では、平成7年度春季公開展示にあわせ5月27日から6月17日までの間、4回にわたり土曜日の午後1時30分から4時まで、同講演室において第16回公開講座「2万年前の石器製作跡」を開催した。

今回も一般市民を対象とした公開講座は、本学教官1名と他の研究者3名が講師となり、企画展「旧石器人のアトリエ」で資料を見ながら2万年前の像を推察できる根拠を理解してもらおうと、発掘のようす、石器資料の研究の仕方、さらにそのデータから考えられる2万年前の世界を順を追って説明したもので、44名が受講した。

講義題目、講師は次のとおりであった。

旧石器を掘る

羽曳野市教育委員会技術職員 辻 麓 学  
石器接合資料を読む 松 澤 亜 生

旧石器を考える

同志社大学文学部講師 松 藤 和 人  
2万年前の世界を描く

文学部教授 山 中 一 郎  
(文学部)

## 工 学 部

### 「環境を守る工学」

工学部では、一般市民を対象とし、第15回公開講座を6月17日から7月1日までの間、3回にわたり毎週土曜日の午後1時30分から午後5時まで工学部電気総合館において開催した。受講者は104名であった。

工学は多くの技術革新に貢献し、多くの人々が豊かな物質生活を享受できるようになった。しかし、新しい技術は環境を変え、人類のみならず他の生物の生存にも影響を及ぼしてきた。過去の技術革新の例を見ても、新技術が社会に適應できるまでには多くの歳月がかかる。人類社会が新技術に対応できるまでの過渡的な問題の多くは、技術によって解決する義務がある。このような立場から、工学に携わる者が環境問題の解決に向けて努力している一端を、いくつかの研究を通じて紹介しようと試みた。

なお、講義題目・講師は次のとおりであった。

ごみ問題とリサイクル	高 月 紘
貴金属のリサイクリング	中 廣 吉 孝
都市環境とデザイン	川 崎 清
電池と電気自動車	小久見 善 八
おいしい水とまづい水	宗 宮 功



21世紀のエネルギーを担う石炭  
—クリーンに大切に使うために—

三 浦 孝 一  
(工学部)

## 人文科学研究所 「物語としての過去」

人文科学研究所では、夏期公開講座を7月7日(金)及び7月8日(土)の2日間、午後1時30分から午後5時まで本研究所本館大会議室において開催した。

1949年以来46回目を迎えた本年の講座は、「物語としての過去」を共通テーマとし、延べ200名近くの受講者があった。

講義題目と講師は次のとおりであった。

自伝のトボス—六朝士大夫の私語りから—  
齋 藤 希 史  
現代インドの宗教ナショナリズムが語る過去  
田 中 雅 一  
バビン共和国盛衰記  
—近世ポーランドのパロディ国家—  
小 山 哲  
「犬と中国人は入るべからず」  
—上海租界伝説— 石 川 禎 浩  
『統治の書』と十～十二世紀の  
東方イスラーム世界 稲 葉 稔  
王昭君の物語—片想いの文学—  
金 文 京  
(人文科学研究所)

生活の工夫や介護の方法、さらに、身近な社会の支援組織の活動などについて、下記のとおり学内外より講師を迎え、講演が行われた。

講座は、井村裕夫学長の開講のことばに始まり、各講義においては毎回活発な質疑応答がなされ、最終講義のあと、高橋清之部長の公開講座のまとめと謝辞で閉講した。

今回の公開講座の受講者は105名であった。

年をとるとということ

—分子の目から見た老化— 浅 野 仁 子  
老年期の身体的特徴と医学的諸問題

並 河 正 晃  
高齢者の生活の工夫 早 川 宏 子

地域ぐるみ家族のように 細 井 恵 美 子  
老年痴呆(アルツハイマー病)の分子生物学

丸 山 敬  
ほけ老人と家族—女の負担 男の出番—

高 見 国 生  
老人介護に役立つ理学療法

—移動動作を中心として— 黒 木 裕 士  
「行く道」—老いをむかえるために—

平 沢 茂



(医療技術短期大学部)

## 医療技術短期大学部

「健康科学公開講座—高齢化社会を迎えて—」

医療技術短期大学部は、去る7月8日から7月29日まで、毎週土曜日の午後4回にわたり、一般市民を対象に第8回健康科学公開講座を同短期大学部講義室において開催した。

本年度は「高齢化社会を迎えて」をテーマに、老いとは何かを多面的に考え、介護する者もされる者も愉しく生きるために、誰にでもできる日常

## 農 学 部

「農林経済・経営・簿記講習会」

生物資源経済学専攻では、恒例の夏期公開講座「農林経済・経営・簿記講習会」を、7月18日(火)から22日(土)までの5日間、午前9時から午後5時まで、農学部講義室などにおいて開催した。

本講習会は、本年度で第59回を数える伝統的講習会であり、これまで附属農業簿記研究施設が開催してきたが、本年からは、農学部改組による同施設の廃止にともない、本年4月に発足した生物資源経済学専攻が引き継いで開催にあたっていくこととなった。本講習会の目的は、日頃、農村および農家の経営指導に従事する人たちに研修の機会を提供することにある。今年も、農業改良普及員、農業協同組合関係職員、農林行政関係職員、高等学校教員、その他団体職員など、全国から72名が参加して行われた。

講習科目および講師は次のとおりであった。

農業経営の改善と複式簿記：原理と応用

稲本志良・辻井博  
小田滋晃

地域農業および農業経営の現代的課題と  
計画・管理の方策

藤谷築次・武部隆  
新山陽子

(農学部)

## 農学部附属演習林

「森のしくみと働き—芦生演習林への招待—」

農学部附属演習林では、7月27日(木)から29日(土)までの3日間芦生演習林(京都府北桑田郡美山町芦生)において公開講座「森のしくみと働き—芦生演習林への招待—」を開催した。

この講座は、一般市民を対象として、芦生の自然と森林についての解説と、森林を構成する樹木の分類法とその実習など、森林自然を理解するための基礎的知識から森林のもつ資源生産、公益的機能までを解説するもので、今回で5回目になる。

講座の第1日と第3日は講義にあて、第2日は森林内での実習を行い、52名が受講した。

それぞれのテーマ及び担当者は次のとおりである。

芦生の自然について(講義)

芦生演習林の概要 竹内典之  
芦生の森林 安藤信

芦生の野鳥 二村一男  
樹木の識別 大畠誠一  
天然林内での講義並びに実習

川那辺三郎・竹内典之  
大畠誠一・安藤信  
高柳敦・長谷川尚史  
山崎理正

森林と人間の関わり(講義)

森林の働き 大畠誠一  
闘いから共存へ 高柳敦  
森林と水 徳地直子



(農学部附属演習林)

## 理 学 部

「現代数学展望」

理学部数学教室では、7月31日(月)から8月4日(金)までの5日間、標記の公開講座を同教室講義室において開催した。

この公開講座は、数学教育関係者をはじめ現代数学に興味ある大学生、高校生を対象に、いくつかの話題を選び、数学の最近の発展について講義し、今後の展望を示唆することを目的としている。

17年目の今年は、各地から49名の受講者があった。

講義題目と講師は次のとおりであった。

アーベル積分の昨日、今日、明日 清水勇二  
円周上の写像の回転数 國府寛司  
指数関数をめぐって 今西英器  
(理学部)



## 数理解析研究所

「数 学 入 門」

数理解析研究所では、8月7日(月)から8月11日(金)までの間、午前10時30分から午後4時まで数理解析研究所4階大講演室において、公開講座「数学入門」を開催した。

この公開講座は、社会人、中学校教員、高等学校教員、学生等を対象に、専門的題材をわかりやすく解説したものであり、134名が受講した。

講義題目、講師は次のとおりであった。

P進数と整数論	辻	雄
微分方程式とその応用	谷口	雅治
マトロイド理論とアルゴリズム	岩田	寛
	(数理解析研究所)	

## 情報処理教育センター

「パソコン利用入門」

情報処理教育センターでは、受講対象を京都市内の中学校教員として、8月21日(月)から8月23日(水)までの3日間、午前10時から午後4時まで、本センター第2演習室において、公開講座「パソコン利用入門」を開催した。本年2月に更新した新システムはインターネットに接続されており、さらにパソコン自体の利用環境が著しく改善されたので、それらを活用した内容の講座とした。すなわち現在中等教育現場で情報処理教育を担当、あるいはコンピュータを学習指導の中に取り込もうとしている教員などに対し、文書処理、表計算、教材提示原稿の作成などのほかに、インターネットを活用した情報取得と発信を含めた演習中心の講座とした。

本講座の受講者は16名であったが、これまで同様な講習を受ける機会の無かった私立中学の教員からは、特に活発な質疑もあり、全員熱心に実習に参加した。総括時に、毎年の実施とワークショップを使った講座開催の要望が強かった。

なお、講師は本センターの教官が分担した。

(情報処理教育センター)

## 防 災 研 究 所

特別企画「阪神・淡路大震災に学ぶ」

防災研究所では、8月24日(木)・25日(金)の両日午前9時30分から午後5時まで、大阪市北区中之島の日本生命中之島研修所において、京都大学防災研究所公開講座特別企画「阪神・淡路大震災に学ぶ」を開催し、450名余りの受講があった。

防災研究所は阪神・淡路大震災直後から現地調査を実施し、多くの事実関係の解明を進めてきた。今回これらの研究成果を社会に還元することを意図して、「阪神・淡路大震災に学ぶ」という特別企画テーマで公開講座を開催した。

このテーマに関しては社会的関心が非常に大きく、先に8月2日から4日までの3日間にわたり全国の地方自治体の防災担当者を対象として開催された防災研究所地域防災計画実務者セミナーも活況を呈したが、今回の公開講座においても定員をはるかに超える受講者があった。

都市と巨大災害にはじまり、活断層と地震動、建物と耐震設計というハード面、災害復旧とこころのケア、危機管理とリスク管理といったソフト面、更に受講者の理解を一層深めるパネルディスカッション“ライフラインと地盤災害”を企画し、今後の総合防災の在り方及び新しい防災学の方角性を示したものである。

それぞれの講義題目と講師は次のとおりであった。

都市と巨大災害	河田	恵昭
活断層と地震動	入倉	孝次郎
建物と耐震設計	中島	正愛
災害復旧とこころのケア	林	春男
危機管理とリスク管理	岡田	憲夫
パネルディスカッション		

—ライフラインと地盤災害—

コーディネーター	池淵	周一
パネラー	安藤	雅孝
	亀田	弘行
	佐藤	忠信
	三村	衛

(防災研究所)

## 霊長類研究所

### 「霊長類の進化」

霊長類研究所では、8月24日(木)・25日(金)の両日にわたって、愛知県犬山市の本研究所会議室において公開講座を開催した。今年では第11回目である。

参加者は、小・中・高・大学教員、会社員、学生、看護婦、保母と幅広い。参加者数は65名で、中部、近畿地方からの参加が多かった。

今回は、霊長類の形態学、生態学、心理学及び実験動物学の側面から、「進化」を中心に霊長類学の講義が行われた。

また、研究の現状と霊長類に対する深い理解が得られるよう配慮して選択による2コースの実習

が行われた。

講義・実習題目と講師は以下のとおりである。

総合司会	景山 節
サル <small>の</small> 形・ヒト <small>の</small> 形	茂原 信生
島という閉鎖空間に棲息する	
ニホンザル群の生態学	森 明雄
霊長類のコミュニケーション	正高 信男
サルにおける動物福祉	松林 清明
形態、骨学実習	毛利 俊雄
心理学実習	友永 雅己
サル <small>の</small> 野外行動観察実習	森 明雄
遺伝学実習	川本 芳
	(霊長類研究所)

### <資料>

#### 国立大学教官等の待遇改善に関する 国立大学協会の要望書

国立大学協会第96回総会において、国立大学教官等の待遇改善に関する要望が了承され、下記要望書が文部大臣等関係方面に提出された。

平成7年7月12日

国立大学協会会長

吉川 弘之

#### 国立大学教官等の待遇改善に関する要望書

国立大学教官等の給与等の待遇改善については、人事院をはじめ関係機関の特段の配慮を得て改善がなされてきたところであり、関係各位のご努力に対して深く感謝する次第であります。

いうまでもなく、近年、教育改革の問題が焦眉の国家的課題とされ、大学についても、教育・研究の充実整備が課題となっております。この課題に因應するうえで、まず何よりも大学自身がその教育・研究体制の改革に取り組むことが必要であり、各国立大学が自己点検・自己評価を実施し、それを自らの大学の改革と活性化の契機とすべく努力しているところであります。

それとともに、大学の質的向上を図るには、その担い手である大学教官等に有為な人材を確保す

ることが基本的前提条件であり、それを充たすためには大学教官等の待遇改善を図ることが一つの必須要件であります。

しかしながら、それはいまだ十分であるとは言いがたい状況にありますので、さらに以下の諸点及び現在検討されていると聞いております俸給の調整額の見直しにあたっては、現状を下回ることのないよう特段の措置を講ぜられますよう、ここに重ねて強く要望する次第であります。

#### 記

1. 教育職(-)の俸給水準の引上げを行う等を含め俸給体系を是正すること。

大学は高等教育および学術研究を推進・発展させる中心の存在として社会の付託に應えて、その任務を果たしている。科学技術の著しい進展と国際化の時代にあつて、その責務は益々増大しているところである。そのときにあつて、大学の教学の中心の担い手は大学教官であり、教育・研究について絶えざる情熱と高い能力を有する優れた人材を擁することは大学の根本であることに鑑み、その俸給をその職務と責任に見合う水準に引き上げるよう特段の配慮を強く要望する。特に近年、国立大学の教官の給与水準が民間企業研究所や私立大学のそれを大幅に下回っている実態が人材確保の障害の要因ともなっていることに配慮しその急なる改善が



待たれる。

また、助手について高校教諭の給与を下回る実態や教務職員の給与の頭打ち等の問題があり、これら職員の格差是正を図る。

なお、以上の俸給水準の引上げと同時に特に中堅教官の給与配分について改善するとともに、教育、研究上の功績顕著な者を優遇するため、特別昇給制度の弾力的運用を図る。

さらに、現行の昇給延伸制度についても、教官の職の高学歴による高年齢就職等による特殊性に着目してその年齢の引上げを図る。

2. 部局長（学生部長、事務局長等を含む。以下「部局長等」という。）について指定職の完全適用を図ること。

部局長等及び教育、研究の功績顕著な教授に対する指定職の適用拡大については改善が図られつつあるが、まだ十分な状況とはいえない。

指定職制度は、特定の職務就任を条件に適用するのが本来の趣旨であることを踏まえ、部局長等については、その存在期間中はすべて指定職俸給表が適用できるよう措置する。

また、特に教育、研究の功績顕著な教授に対して指定職俸給表の適用をさらに拡大する。

3. 管理職手当の適用対象の拡大と増額を図ること。

近年、大学における管理運営の職責が益々重くなりつつある実情に鑑み、学科長、全学段階の委員等の学内教育行政の要職にある者について、管理職手当支給の途を開くよう配慮する。

特に、学科長については、法令上の職として位置付けられていることを踏まえ、早期に措置する。

なお、部局長等について指定職の完全適用を前項で要望しているところであるが、指定職が適用されるまでの間、引き続きその増額を図る。

4. 大学教官特有な職務に見合う手当として「大学研究調整額」（仮称）を新設すること。

大学教官は、高度の専門教育を行うばかりでなく、進展極まりない学術の研究について一定の業績を常に要請される。そのため、各種学会活動や独自の情報の収集等多様な教育・研究活動を遂行することが必須となっている。

しかしながら、このような多様な教育・研究活動に際して、自費から支出する研究費が少なく

ないことが、当協会財政基盤調査研究委員会が行った全国調査結果により明らかになっている。

この特別な経費負担に対する措置として「大学研究調整額」（仮称）の新設を図る。

なお、職務の特殊性に基づきすでに支給されているものとしては、「義務教育教員には「教職調整額」、医師等には「初任給調整手当」等がある。

5. 夜間主コース担当教官に特別な給与措置を講ずること。

主として夜間に授業を行う大学・学部の教官は、昼・夜両コースの教育を担当しており、その勤務形態は特殊なものである。

また、夜間主コースでは主として社会人学生を対象としており、教育上多数な対応が必要である。

これらのことを考慮し、夜間主コース担当教官に特別な給与措置を講ずること。

6. 教育・研究支援職員等の待遇の抜本的改善を図ること。

当協会は、かねてから大学特有の専門職である技術職員等の教育・研究支援職員の抜本的な待遇改善を要望し、「専門行政職俸給表」の適用を切望してきたが、これら職員の現状が同俸給表を適用できる状況に置かれていないとされ、その適用が見送られてきたところである。

しかしながら当協会としても、教育・研究支援職員の在り方について、先に、各国立大学に対し、教室系技術職員の組織化および研修等についてその実現方を要請し、現在までに職員規模で相当数が組織化され、また、多くの大学において多様な研修が行われている。「専門行政職俸給表」への移行のための条件が成熟された状況を踏まえて、早期かつ円滑に実現されたい。

また、大学における教育・研究支援職員の教育・研究に果たす役割は大きく、かつ不可欠なものであり、俸給表の種類にかかわらず、これら職員の俸給をその職務と責任に見合う水準に引き上げるよう措置する。

7. 大学の中堅職員（事務系）の待遇改善を図ること。

大学においては、事務長、補佐、係長等の定数が固定されており、豊富な職務経験、職務遂行能力を持つ適任者でありながら、昇任・昇格



が限定されるために俸給の上で格差を生じている。このことは、大学の中堅職員等に職務遂行意欲を欠くこととなり、ひいては大学運営の業務に重大な影響を及ぼす結果となりかねない。

また、特に近年教育研究の国際化に伴う国際学術交流や留学生受入れ、大学院の整備充実、教育研究システムの多様化、複雑化への対応等高度の専門性を要する新たな業務が激増している。

よって、引き続き専門職員制度を一層拡大するとともに、上位の級別定数について特段の措置を図る。

#### 8. 看護職員の待遇改善を図ること。

医学・医療の進展に寄与する診療、教育、研

究の場であることを使命とする大学病院において看護職員に課せられた任務は極めて高度化、専門化しており、その役割は重要なものとなっている。

また、看護婦等の人材確保の促進に関する法律が制定され、待遇の改善が図られてきているが、まだ十分とはいいがたい。

看護力の強化は、大学病院の運営にとって不可欠の課題であり、初任給を含む給与水準の引き上げを引き続き図るほか、夜間看護手当の増額を図る。

また、看護職員の勤務形態の特殊性等に配慮し、勤務環境の改善を図る。

## <紹介>

### 大学院医学研究科の重点化について

医学部は、明治32年開校以来、逐次拡充を遂げ、昭和30年8月大学院医学研究科が発足した。昭和60年4月大学院医学研究科に分子医学系専攻(分子腫瘍学・分子遺伝学・分子病診療学)、さらに平成2年6月同研究科に脳統御医科学系専攻(高次脳形態学・認知行動脳科学・脳病態生理学)が設置された。

医学部の講座は、15講座12学科目であったが、学部教育6年と、大学院博士課程4年で、医学者として国際的レベルに到達させるよう10年を通して一貫した教育研究を目標とした医学大学院を目指し、大学院医学研究科重点化構想を平成5年度

より実施した。平成5年4月大学院医学研究科生理系専攻、病理系専攻、社会医学系専攻の整備及び先端・国際医学(客員)講座の設置、平成6年6月同研究科内科系専攻、分子医学系専攻の整備、平成7年4月同研究科外科系専攻、脳統御医科学系専攻の整備を行い、7専攻21講座(1客員講座を含む)の大学院医学研究科として改組を完了した。

京都大学医学部は、従来から、研究志向の強い医学部として、国際的に高い水準の研究成果を発表し、多くの優れた研究者を輩出してきた。また臨床面でも高度医療の一つの中心として、その関連病院と共に極めて高水準の臨床医師を世に送り出してきた。大学院中心の新しい研究教育組織により、基礎医学、臨床医学、社会医学を問わず、質・量ともにこれまでのそれを大巾に上まわる研究成果が得られるものと期待される。同時に、次の時代を背負う研究者、高度医療を遂行する専門医師の育成が一層有効、強力に行われると考えられる。

一方、学部教育の方も、平成3年度から行われた改革を一層推進して、その目標とする独創的科学観の涵養、医学の知識と手技の確実な習得、豊かな人間性と社会性を持った医師として必要な人格の陶冶がより十分になるものと期待される。

去る6月20日に井村裕夫総長の揮毫による「大学院医学研究科」の門標上揚が井村裕夫総長、菊池晴彦医学研究科長はじめ医学研究科関係教官の出席のもとに行われた。

(医学研究科)



(機構図)





## 敗戦と京都帝国大学同学会

京都帝国大学同学会は、1941年8月4日に文部省訓令で各学校に全校組織の学校報国隊（団）が組織されるのに先立って、同年4月1日に京都帝国大学学友会を改名改組して作られた。1942年10月1日改正の同学会規則によると、「会員の心身の修練相互の親睦並に生活の便益を図りて国家的協同精神を涵養する」ことを目的としていた。会長は総長、顧問は各学部長、運営の中心となる中央部も理事長（1人）・理事（5人）は教職員で、中央委員が5人の学生という、大学当局の指導色の強い組織であった（以下、史料は断りのないかぎり、百年史編集史料室所蔵の史料）。

敗戦後の10月から11月にかけて、同学会は新時代に適応すべく、戦時下で文化に飢えていた学生を満足させようと、講演会や座談会をたびたび開いた。10月7日の重森三玲の臨地講演会、同月12日の羽田亨総長による「帰学を迎ふるの辞」など、2か月間で計10回開催された。

また、1945年9月26日付の、学校報国団を新しい組織に改組すべしという文部次官の指令にもとづき、10月1日に射撃部・銃剣道部・航空部・海洋部を廃止、11月6日の文部省体育局長の指令により、同月13日に柔道部・剣道部・弓道部を廃止した。同日、同学会の運営に関し学生（正会員）の自主的活動を強化するため、組織を改組しようと、1945・46年度協議委員（1945年10月～46年9月）候補者の選挙が行われることになり、投票日は同月27日となった。1942年10月1日の同学会規則によると、協議委員の数は各学部正会員500名までにつき3名、それ以上300名を増すごとに1名を加え、候補者は協議委員の数の2倍を互選し、その中から会長が任命することになっていた。しかし立候補者が定員に満たず（表1）、投票は行われなかった。所属も厚生部6、音楽部1、無所属12で、政治色は特に見られなかった。

ところが、1946年3月17日には、京都帝国大学学生集会所で全京都学生同盟が発足し、学生最低生活確保のため、食事調査・市電定期値下げ運動・遊休家屋活用による下宿難解決などや、定期音楽会・時事問題研究会の設置などを掲げるなど、敗戦後のインフレと食料難など貧困な学生生活の実態を背景として、学生の活動も活発化するようになった（『大学新聞』1945年11月21日、46年2月1日、11日、3月11日、『学園新聞』1946年4月1日）。このような学生の政治・社会意識の強まりを反映して、前述の手続きで選出された同学会協議委員（学生）と同学会理事長・理事（総長・各学部長）の間で、同学会の規則を改正し、改組するための懇談会が1945年12月から翌年の4月にかけて進展した。こうして、1946・47年度同学会協議委員（46年10月～47年9月）は、46年10月23日に学生の投票によって直接選出されることになった。今回は立候補者が多く、文学部以外は投票によって決定された（表2）。また立候補者（うち当選者）の所属が社会科学研究会6（4）、青年共産同盟4（1）、唯物論研究会2（2）など、左派色の強い学生が登場するようになった。同学会規則は46年12月4日に改正された。

表1 1945・46年度協議委員候補者の立候補者数

学部 定員等	学部						
	法	医	工	文	理	経	農
定員	12	8	12	6	6	8	6
立候補者	6	4	3	1	2	2	1

表2 1946・47年度協議委員候補者の立候補者数

学部 定員等	学部						
	法	医	工	文	理	経	農
定員	8	4	5	4	3	5	3
立候補者	11	6	7	4	6	11	6

（備考）立候補辞退者は含まない。



こうして同学会は総長・各学部長などを中央顧問として残すものの、学生から選出された協議委員と、その互選により選ばれた中央委員長を中心とする、学生主体の新しい組織となった。初代の中央委員長は、法学部の末本徹夫であった。末本は1947年4月の京都市議会選挙に、有信会・同学会などの友人の手弁当の支援で当選し、学生市議会議員となる（末本談、『学園新聞』1947年5月11日）。

（百年史編集委員会 伊藤 之雄）

## 計報

### 林 良平 名誉教授

本学名誉教授 林 良平 先生は、6月23日逝去された。享年76。

先生は、昭和15年京都帝国大学法学部を卒業、同年神戸商業大学助手、同28年神戸大学教授を経て同年10月京都大学法学部教授に就任され、民法講座を担当された。昭和57年停年により退官され京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和44年3月から同45年10月まで法学部長、評議員、同48年4月から同57年3月まで附属図書館長、評議員を歴任され大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、近畿大学教授、同大学大学院法学研究科長、弁護士として活躍された。加えて信託法学会理事長、金融法学会理事長、日本私法学会理事、比較法学会理事、医事法学会理事、日仏法学会理事などを歴任されて、法学界全体の進展に尽力された。また、日本学術会議会員、国立大学協会大学運営協議会委員、文部省法学政治学視学委員、文部省図書館視察委員として専門分野を越えて、我が国の学術の発展にも寄与された。更に司法試験審査委員及び外務省上級公務員試験委員をも務められ、実務家の養成に尽力されたほか、法制審議会民法部会委員として立法作業にも貢献された。

先生のご研究は、経済学、社会学、心理学などの深い素養を背景として、社会における人間行動についての多面的な洞察に基づくものであり、高度の思弁と現代取引社会の現状を良く調和させることに意を用い、そこからくる理論的分析の鋭さ

と結論の具体的妥当性は、常に学界実務界に大きなインパクトを与えた。

主な著書には、『物権法』、『債権総論』、『林良平著作選集Ⅰ・Ⅱ』などがある。これら一連の研究教育活動、学界活動により本年春、勲二等旭日重光章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（法学研究科）

### 武藤 一雄 名誉教授

本学名誉教授 武藤一雄 先生は、6月27日逝去された。享年81。

先生は、昭和16年京都帝国大学文学部哲学科を卒業後、松本高等学校教授、第三高等学校教授、京都大学分校助教授、文学部助教授を経て、同37年文学部教授に就任。宗教学第二講座（基督教学）を担当された。昭和52年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

この間、昭和47年1月から同49年1月まで京都大学評議員を併任され、大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、昭和52年4月より同57年3月まで関西学院大学教授、同57年4月から同61年3月まで龍谷大学教授を務められた。

先生は、キリスト教思想、中でもキリスト教的宗教哲学の基礎研究において優れた研究業績を残され、狭い神学主義から解放されながらも実定的宗教の本質と真理に忠実たろうとする宗教哲学の構築に寄与されるとともに、諸宗教の対話を可能ならしめる新しい宗教哲学の方法論の基礎付

けにおいて学界に多大な貢献をされた。主な著書に『神学と宗教哲学の間』、『宗教哲学の新しい可能性』等がある。

また、日本基督教学会、日本宗教学会などにおいて、理事、評議員等の要職を歴任された。これら一連の研究教育活動、学界活動により、昭和61年11月勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(文学部)

---

### 水 渡 英 二 名誉教授

本学名誉教授 水渡英二 先生は、7月6日逝去された。享年83。

先生は、昭和11年京都帝国大学理学部化学科を卒業、同17年京都帝国大学大学院理学研究科を修了、理学部講師、化学研究所講師、助教授を歴任の後、同26年より化学研究所教授に就任、粉体化学研究部門を創設、また理学研究科結晶化学分科も担当された。

この間、昭和47年4月より同49年3月まで化学研究所所長及び評議員を務め、大学の管理、運営に多大の貢献をされた。昭和50年停年により退官、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和52年3月まで大阪工業大学教授、続いて舞鶴工業高等専門学校校長として教育と研究に携わり、同60年4月同校名誉教授の称号を受けられた。

先生は、電子顕微鏡が化学の分野で重要な役割を果たすことを早くから見通され、これをコロイド物質や微粉体の研究に応用することで実証された。さらに超高圧電子顕微鏡や超高分解能電子顕微鏡法の開拓にも力を尽くされ、とくに有機分子形態直接観察の成功は世界的に高い評価を受け、その後の電子顕微鏡の国際的な流れを作られた。またコロイド化学、粉体化学、界面化学、結晶化学の分野においても多数の業績を残され、昭和32年度日本電子顕微鏡学会瀬藤賞、ゴム協会優秀報文賞、同37年粉体粉末冶金協会研究功績賞、同45

年日本化学会賞など数々の賞を授与された。

先生は、日本化学会副会長、同近畿支部長、同会コロイドと界面部会初代会長、電子顕微鏡学会会長、粘土学会会長、粉体粉末冶金協会副会長をはじめ多くの学協会で理事、評議員、常議員、各種委員等を務められ、学協会の発展に尽力された。昭和41年から同47年まで日本学術会議会員(第4部)を2期務められた他、多くの国際会議の組織委員長などを通じ、国際交流にも力を尽くされた。

これら数多くの業績に対し、昭和52年11月紫綬褒章を、同59年文部大臣表彰、同63年4月勲二等旭日重光章を受けられた。

ここに謹んで、哀悼の意を表します。

(化学研究所)

---

### 田 中 藤 雄 附属図書館情報管理課 図書受入掛長

附属図書館情報管理課図書受入掛長 田中藤雄氏は、7月18日逝去された。享年41。

同氏は、昭和54年滋賀医科大学教務部図書課に就職され、以後、本学数理解析研究所、附属図書館閲覧課を経て、奈良教育大学附属図書館情報サービス係長、本学医学部閲覧掛長、附属図書館情報管理課図書受入掛長を歴任、この間、16年余りの永きにわたり一貫して大学図書館事務に貢献された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(附属図書館)

## 日誌

(1995年6月1日～8月31日)

- |      |   |          |   |
|------|---|----------|---|
| 6月5日 | 総長，職員組合との交渉に出席  | 11日      | 平成7年度京都大学技術職員研修（第14回）<br>（20日まで）  |
| 13日  | 保健衛生委員会   | 18日      | 農学部公開講座「農林経済・経営・簿記講習会」（22日まで）   |
| 14日  | 創立記念行事（音楽会）   | 19日      | 発明審議委員会   |
| 16日  | 同和問題委員会   | 〃        | 附属図書館商議会  |
| 17日  | 工学部公開講座「環境を守る工学」（以後，<br>24日，7月1日）                                     | 21日      | アメリカ合衆国 ハーバード大学 James<br>Wilkinson デレク・ボク「教授・学習」研究<br>センター長来学，総長及び関係教官と懇談 |
| 19日  | 創立98周年記念式典  | 23日～8月6日 | 総長，アメリカ合衆国の諸大学における教<br>育，研究状況を調査し，併せて日米医学協力<br>委員会出席のためアメリカ合衆国を訪問         |
| 〃    | 名誉教授懇談会   | 27日      | 農学部附属演習林公開講座「森のしくみと働<br>き—芦生演習林への招待」（29日まで）                               |
| 21日  | 国際交流委員会   | 31日      | 理学部公開講座「現代数学展望」（8月4日<br>まで）   |
| 〃    | 国際交流会館委員会   | 8月7日     | 数理解析研究所公開講座「数学入門」（11日<br>まで）  |
| 〃    | 放射性同位元素等管理委員会   | 15日      | ドイツ連邦共和国 Richard von Weizsäcker<br>前大統領他5名来学，総長及び関係教官と懇<br>談              |
| 27日  | 評議会   | 21日      | 情報処理教育センター公開講座「パソコン利<br>用入門」23日まで）  |
| 30日  | 防火委員会   | 22日      | ニュージーランド Maarten Laurens Wevers<br>大使他1名来学，総長及び関係教官と懇談                    |
| 〃    | フランス共和国 CNRS Jean-Pierre Chevillot<br>特別クラス主任研究員他2名来学，総長及び<br>関係教官と懇談 | 24日      | 防災研究所公開講座特別企画「阪神・淡路大<br>震災に学ぶ」（25日まで）                                     |
| 7月5日 | 国際交流委員会   | 〃        | 震長類研究所公開講座「霊長類の進化」（25<br>日まで）   |
| 6日   | 環境保全委員会   |          |   |
| 7日   | 人文科学研究所夏期公開講座「物語としての<br>過去」（8日まで）                                     |          |   |
| 〃    | ブルガリア共和国 ソフィア大学 Ivan<br>Yotov Lalov 学長他1名来学，総長及び関係<br>教官と懇談           |          |   |
| 8日   | 医療技術短期学部健康科学公開講座<br>「高齢化社会を迎えて」（以後，7月15日，22<br>日，29日）                 |          |   |
| 11日  | 評議会   |          |   |
| 〃    | 大学院審議会  |          |   |
| 〃    | 建築委員会   |          |   |



